臼田地区の皆様へ

住民向け説明会
当日資料

佐久市指定家庭系ごみ袋
生ごみ専用袋の変更について

令和３年７月

佐久市役所　生活環境課

説明会次第

◆変更内容

１．生分解性プラスチックとは・・・P３

２．変更の経緯　・・・P４

２．デザインについて　・・・P５

３．販売価格について　・・・P６

４．販売開始時期について　・・・P７

◆お取り扱い上の注意点

１．使用期限について　・・・P８

２．保管方法について　・・・P９

３．その他注意点　・・・P１０

◆生ごみの出し方に関するQ&A　・・・P１１～１８

変更内容

令和３年８月から家庭系生ごみ専用袋が変わります

- 生ごみ専用袋は、紙製から生分解性プラスチックを使用した袋に変わります。

（生ごみ以外の袋は従来通りです。）

新しい袋は、石油由来と植物由来の生分解性プラスチックを組み合わせたものになります。

生分解性プラスチックとは？

・生分解性プラスチックは、通常のプラスチックと同様に使うことができ、使用後は自然界に存在する微生物の働きによって、最終的には水と二酸化炭素に分解されます。

・したがって、今まで同様、袋のまま堆肥センターに投入してもリサイクル(堆肥化)可能です。

変更内容

どうして変更するの？

- 利便性の問題
- 製造に関する問題

利便性の問題

今までの紙製の袋

・袋の口を付属の麻ひもで縛る必要があり、手間がかかる。
・袋に持ち手が無く、ごみステーションまで持っていくのが大変。

製造に関する問題

今までの紙製の袋

・仕様上、特殊な加工が必要なため、製造可能な業者が限られる。
・設備の老朽化等により、今後の製造が困難になる。

新たな袋の導入を検討

・袋のまま堆肥化可能なもの
・左記問題を解消するもの

- 他の自治体への聞き取り
- 袋製造業者との打ち合わせ

生分解性ごみ袋の導入

堆肥化における生分解性ごみ袋のメリット

・**袋ごと再資源化可能**
　生分解性プラスチックは、微生物の働きによって分解されるため、生ごみと一緒に袋も再資源化できる。
・**廃棄物の削減**
　通常のプラスチックを原材料とした袋を使用した場合に発生する、袋の残渣の除去や焼却処分等の作業を省力化し、廃棄物の削減が可能。

環境に配慮した先進的な取り組みとして、生分解性プラスチックを使用したごみ袋を導入する自治体が増えつつある。

導入済み自治体

東御市、長和町、木曽広域連合、益子町(栃木県)、高根沢町(栃木県)、水俣市(熊本市)、中富良野町(北海道)、上富良野町(北海道)など

変更内容

袋のデザインも変わります

- 材質の変更にあわせて、デザインも変わります。
- 新しい生ごみ専用袋は、透明にオレンジ色の文字が印刷されています。

現在

紙製

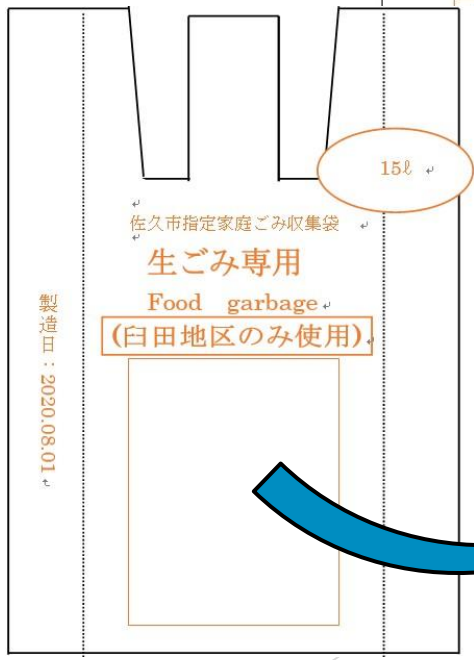
変更後

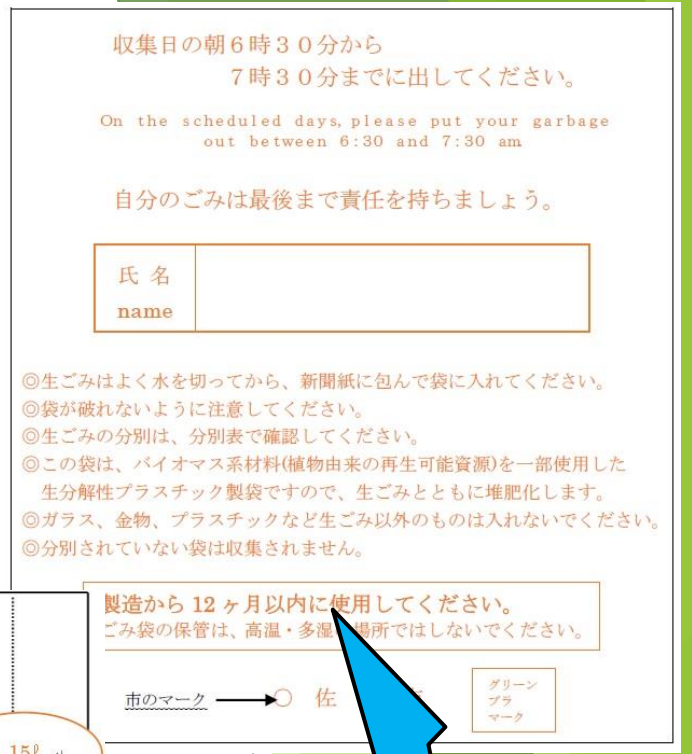
生分解性プラスチック

15ℓ

幅：330㎜
長さ：525㎜
マチ幅：70㎜

・新しい袋の大きさは、15ℓの1種類のみです。
・レジ袋状の持ち手と縛り口が付いています。





※イラストはごみ袋のイメージです。

変更内容

新しい袋(生分解性)の販売価格について

- 新しい袋は、10枚1組で110円(税込)です。

現在

紙製

変更後

価格は10枚1組の
希望小売価格(税込)です。
※店舗によって販売価格
が異なる場合があります。

生分解性
プラスチック

※イラストはごみ袋のイメージです。

変更内容

新しい袋(生分解性)の販売開始時期について

- 新しい袋(生分解性)の販売開始は、令和3年8月からの予定です。
- 古い袋(紙製)の在庫がなくなるまでの間は、新しい袋(生分解性)と古い袋(紙製)の両方が店頭で販売されます。

※店舗によって販売状況が異なる場合がございます。

令和3年8月から

・店頭には、古い袋(紙製)と新しい袋(生分解性)の両方が並ぶ場合があります。
・古い袋(紙袋)と新しい袋(生分解性)のどちらを使っても生ごみを出すことができます。

※イラストはごみ袋のイメージです。

お取り扱い上の注意点

生分解性プラスチックには使用期限があります

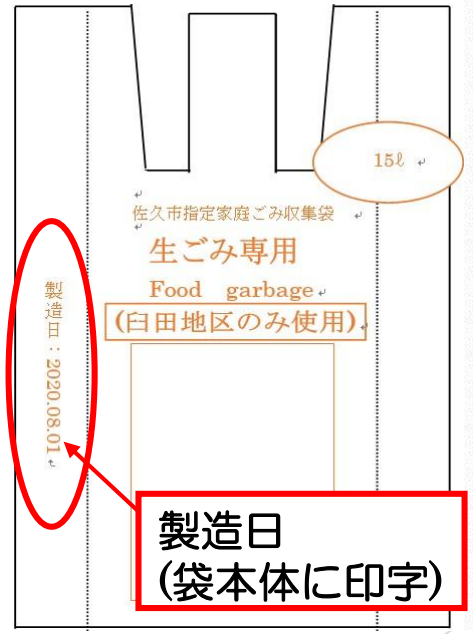
- 製造日から概ね1年以内に使用してください。

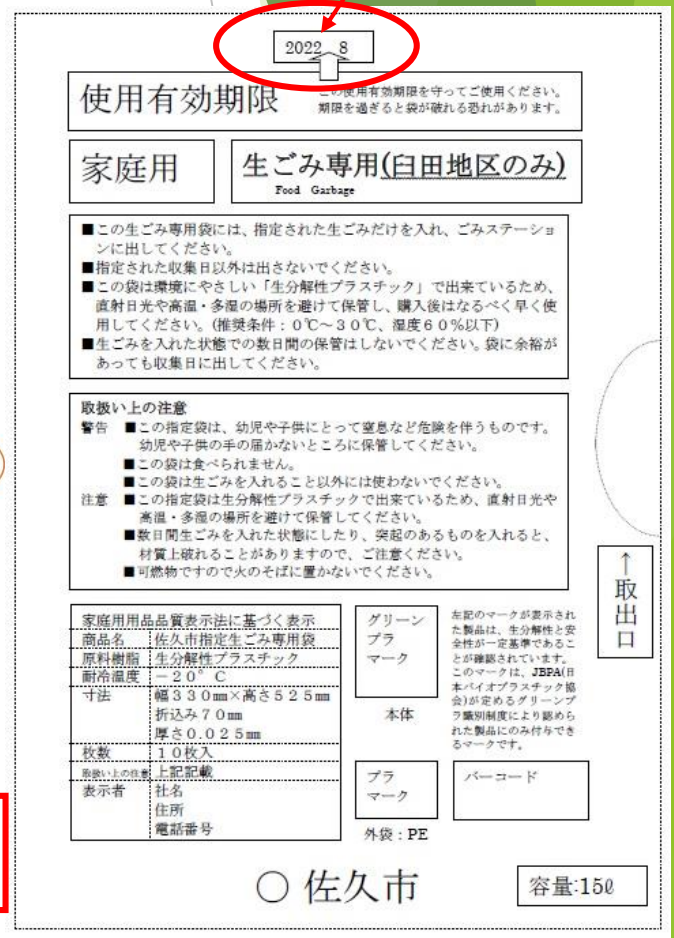
※製造日は、袋本体に印刷されています。

※外袋に印刷された使用有効期限をご確認ください。

まとめ買いに注意！

- 生分解性プラスチックは、保管状況により徐々に劣化します。
- 使用有効期限は、あくまでも目安です。保管状況によっては、1年を待たず使用できない状態になる可能性があります。
- まとめ買いはせず、必要最低限だけ購入しましょう。





※イラストはごみ袋のイメージです。

お取り扱い上の注意点

保管方法について

- 袋の劣化を防ぐため、下記に注意して保管してください。

生分解性プラスチックは、保管状況により徐々に劣化します。

直射日光や高温・多湿を避けてください

・直射日光や高温・多湿は袋の劣化の原因になります。購入後は、直射日光や高温・多湿を避けた場所で保管してください。
（推奨条件：０℃～３０℃、湿度６０％以下）

・袋に生ごみを入れた状態での保管も劣化の原因になりますので、袋に余裕があっても収集日に出してください。

・製造日や使用有効期限を確認して、古いものから使用してください。

※使用有効期限は、あくまでも目安です。保管状況によっては、期限より前に使えなくなる場合がありますのでご注意ください。

お取り扱い上の注意点

その他注意点

袋の厚さに注意

・新しい袋は、若干薄い生地になっているので、袋に入れるごみの量に注意してください。
・突起があるものを入れると、材質上破れることがありますので、ご注意ください。

入れられる生ごみの種類について

・新しい袋になっても、袋に入れられる生ごみの種類は変わりません。
・これまで同様、鶏等の硬い骨、桃等の硬い種、貝殻、とうもろこしの芯は「可燃ごみ」へ分別してください。

新聞紙の使用について

・新しい袋になっても、生ごみを新聞紙で包んで出すことができます。
・生ごみの水切りを行ってから新聞紙に包んでください。
・袋には生ごみ以外のものを入れないでください。

生分解性プラスチック製生ごみ袋に関するQ&A

※説明会での質問を追加しました。

Q1．どうして生分解性の生ごみ専用袋に変更するのですか？	A1．今までの紙製の袋は、縛り口や持ち手が無く、ごみステーションまで持っていくのが大変だと言うご意見がありました。 　また、製造に特殊な加工が必要なため、製造可能な業者も限られ、今後の製造が困難になってしまいます。 　新たな生ごみ袋の導入を検討する中で、環境に配慮した先進的な取り組みとして導入する自治体が増えつつある生分解性プラスチック製の生ごみ袋に変更することとなりました。
Q2．新しい袋（生分解性）はいつから販売され、いつから使用できますか？	A2．新しい袋（生分解性）は、令和3年8月から販売開始の予定ですが、古い袋（紙製）の在庫がなくなるまで、新しい袋（生分解性）と古い袋（紙製）の両方が店頭に並びます。店舗によっては、古い袋（紙製）の在庫が無くなるまで、新しい袋（生分解性）の仕入れを行わない場合もございますので、ご了承ください。 　新しい袋（生分解性）は、販売開始後から使用可能です。古い袋（紙製）も引き続き使用できますので、どちらをご使用いただいても構いません。

生分解性プラスチック製生ごみ袋に関するQ&A

※説明会での質問を追加しました。

Q3. 家庭にある古い袋（紙製）はどうすればいいですか？	A3. 今までの生ごみ専用袋（紙製）を使っても生ごみを出すことができます。ご家庭に古い袋（紙製）がある場合は、古い袋（紙製）から先に使い切ってください。
Q4. 古い袋（紙製）は、いつまでに使い切れば良いですか？	A4. 期限は設けておりませんので、無くなるまで使っていただいて構いません。
Q5. 新しい袋（生分解性）の色やデザイン、大きさは変わりますか？	A5. 今までの紙製の袋から、生分解性プラスチックを使用したビニール袋に変わります。 新しい袋（生分解性）は、透明にオレンジ色の文字が印刷されています。大きさは15ℓの1種類のみです。 若干薄い生地になっているので、袋に入れるごみの量や、突起があるものを入れる際はご注意ください。

生分解性プラスチック製生ごみ袋に関するQ&A

※説明会での質問を追加しました。

Q6. 新しい袋（生分解性）の販売価格はいくらですか？	A5. 販売店での希望小売価格は10枚1組で110円（税込み）です。 ※店舗によって販売価格が異なる場合があります。
Q7. 新しい袋（生分解性）に入れられる生ごみの種類は、今までと変わりますか？	A7. 新しい袋（生分解性）になっても、袋に入れられる生ごみの種類は変わりません。これまで同様、鶏等の硬い骨、桃等の硬い種、貝殻、とうもろこしの芯は「可燃ごみ」へ分別してください。
Q8. 生ごみを新聞紙で包んで、新しい袋（生分解性）に入れても良いですか？	A8. 新しい袋（生分解性）になっても、生ごみを新聞紙に包んで出すことができます。 また、新しい袋（生分解性）を使用する場合は、生ごみを新聞紙に包まず、袋に直接入れることもできます。 いずれにしても、生ごみの水切りを行ってから袋に入れていただくようお願いします。 ※袋には生ごみ以外のものを入れないでください。 ※袋に生ごみを入れたままの状態での保管は、袋の劣化の原因につながる恐れがあるため、ご注意ください。

生分解性プラスチック製生ごみ袋に関するQ&A

※説明会での質問を追加しました。

Q9. 新しい袋（生分解性）の保管上の注意点はありますか？	A9. 新しい袋（生分解性）は直射日光や高温・多湿で劣化します。購入後は、直射日光や高温・多湿を避けた場所で保管してください。 また、新しい袋（生分解性）には使用期限があります。製造日から概ね1年以内に使用してください。 生ごみを袋に入れたままの状態での保管は、袋の劣化の原因になりますので、ご注意ください。
Q10. 使用有効期限を過ぎてしまった新しい袋（生分解性）は、使用することができないのですか？	A10. 使用有効期限を過ぎてしまったものであっても、使用に問題のない状態であれば、ご使用いただいて構いません。 使用有効期限は、あくまでも目安ですので、保管方法に注意していただければ、製造から1年を過ぎても問題なく使用できる場合があります。 しかし、どんなに保管方法に注意しても、劣化は確実に進みますので、ご使用の際は、袋を広げて、使用に問題がないか確認していただくようお願いします。

生分解性プラスチック製生ごみ袋に関するQ&A

※説明会での質問を追加しました。

Q11．新しい袋（生分解性）は、使用有効期限がどのくらい残ったものが店頭に並びますか？	A11．できるだけ使用有効期限まで余裕があるものを販売店へ出荷できるようにしたいと考えております。 新しい袋の製造は、年4回に分けて行う予定ですので、出荷数や店頭での販売量などを考慮しながら製造計画を立ててまいります。
Q12．古い袋（紙製）と新しい袋（生分解性）を交換してもらうことはできますか？	A12．交換はできません。古い袋（紙製）を使用して生ごみを出すこともできるので、古い袋（紙製）から先に使い切ってください。
Q13．劣化してしまった生分解性の袋を、新品の袋と交換してもらうことはできますか？	A13．購入後の保管状況による劣化の場合、交換することはできません。製造工程における不良品（接着不良など）の場合は、生活環境課までご連絡ください。

生分解性プラスチック製生ごみ袋に関するQ&A

※説明会での質問を追加しました。

Q14. 劣化してしまった新しい袋（生分解性）を処分する場合、どの分別で出せば良いですか？	A14. 劣化してしまった新しい袋（生分解性）は「埋立ごみ」へ分別してください。
Q15. 穴が開いたり、破れてしまった新しい袋（生分解性）をガムテープやセロテープで補修しても良いですか？	A15. ガムテープやセロテープは、堆肥化の妨げになりますので、使用しないようお願いします。 また、新しい袋（生分解性）を2重にして出さないようお願いします。
Q16. 新しい袋（生分解性）は、若干薄い生地になっているとのことですが、強度に問題はありませんか？	A16. 15ℓのごみ袋として使用することを想定した場合、問題のない強度だと考えておりますが、袋に入れるごみの量や、突起があるものを袋に入れる際は、ご注意ください。

生分解性プラスチック製生ごみ袋に関するQ&A

※説明会での質問を追加しました。

Q17. 新しい袋（生分解性）は、今までと同じお店で購入できますか？	A17. ごみ袋の販売は、販売申請のあったお店で行っております。 今まで販売していた店舗でも、古い袋（紙製）の在庫が無くなるまでは、新しい袋（生分解性）の仕入れを行わない場合がございますので、ご了承ください。
Q18. 新しい袋（生分解性）の大きさは、15ℓの１種類しかありませんが、今後、違う大きさの袋を作る予定はありますか？	A18. 現在のところ、予定はありません。 新しい袋（生分解性）の大きさは、生ごみの収集頻度や袋の強度など、様々な要素から検討を行い決定しました。

生分解性プラスチック製生ごみ袋に関するQ&A

※説明会での質問を追加しました。

Q19. 臼田地区だけで行っている、生ごみの分別収集・堆肥化を、佐久市全体で行う予定はありますか？	A19. 現在のところ、予定はありません。 生ごみの分別収集・堆肥化は、合併前の旧臼田町時代から、先進的な取り組みとして行ってきました。 現在の堆肥センターは、合併の数年前に出来たばかりの施設であったため、合併後も臼田地区において有効活用していくこととなりました。 引き続き、ご理解ご協力をお願いします。
Q20. 新しい袋には、記名をしなくてはいけませんか？	A20. これまで同様、袋への記名をお願いします。
Q21. 新しい袋（生分解性）を堆肥センターに投入しても、きちんと堆肥化されますか？	A21. 堆肥センターにおいて、生分解性プラスチック製ごみ袋の投入実験を行ったところ、袋ごと問題なく堆肥化されることが確認できました。

【お問い合わせ先】
佐久市　環境部　生活環境課
☎０２６７-８２-３０９４(直通)